大分大学学藝学部同窓会報

発行者
大分大学学藝学部
同窓會

印刷
昭和三十年二月十九日

大分市天神町一二九〇
九州凸版印刷株式会社

会報創刊にあたつて

会長 矢野孝吉

今度わが同窓会報を創刊することになりました。会員各位の御愛読を御願い致します。

さて、わが同窓会は別記会則にあります様に、大分師範（男子）、大分女子師範、青師範等の旧同窓会を次々に合併して最後に、学芸学部卒業生を加えてこの会を作つたものであります。つまり本県に於ける明治初年以来の教育者養成学校の卒業生を以て組織したもので現在の会員は退職者、現職者を合すると少くとも一万四五千に上ることと思います。

本会会則には別記の通り目的、組織、事業、を定めてありますが、会員数が余りに多数で、却つてまとまつた事業が出来ませんでした。殊に終戦後母校の組織がしばしば変更して其の都度夫々同窓会を合併した為めに落付いた事も出来ませんでした。又私が会長の栄職を汚した結果で自責の念にかられて居ります次第で御座います。

然し曾つて母校大分師範、大分女子師範が合併して大分大学の期成会を作つた時には会員諸君が後援を致したのでありますし又大分大学の期成会を作つた時には、県、市町村、其他の団体と共に本会も大に協力することにして会員各位を願つたのでありますが未完遂で醸出額が各郡市の大小、即ち会員数に比例しない居りませんので或る郡では最後の努力を御願いしいと思います。

次に学部内にある教育研究所には毎年若干の援助を致してまいりました。又昨二十九年度からは在学生の学術研究補助（別項参照）をしてその研究心を高め一つには本会員と学生との連絡を緊密にしたのであります。

本会の会合は機会がありませんでした。各郡市別に或る他の会合の機に併せて開催することを企てましたが之も実現しませんでした。之はその主会合の行事が沢山あるので併せての開催は出来ませんし又同窓会独自の開催も困難でした。只、昨年秋明治三十九年度までの卒業生生存者百十名の中三十四名が県下の各地から集つて一泊懐旧会を開いて欲を尽しました。将来何等かの機会に大小の会合を開くことが出来ればと存じます。

回顧しますと明治から大正にかけて教育県といえば東に「長野」西に「福岡」が称する青年の指導が日露戦争に非常に役立つた事と戦後国力回復の必要からとで明治四十一年補習教育令が施行せられ、補習科或は補習学校が生れましたが、近い将来に戦争の憾念はなく主目的は国力の回復であつて国力を増すこと、国民の要求と国家的要求との一致によつて国からも県からも特別の援助とてはなく市町村の財政の許す限り出発したものであつた。

昭和十二年大分県立三重農学校に併設されて十四箇年の歴史を経た大分県実業補習学校教員養成所が益々拡充強化せられ、遂に発展的に解消して新に大野郡大野町に修業年限二箇年の大分県青年学校教員養成所が独立校として設立された。所長は小野拡先生で最も国策に順応した新教育方針に向つて強く発足したと思う。

昭和十三年支那事変勃発に際しては青年学校教育が非常に重視され発展の一路をたどり特に国民強兵の国家的要請に強く迫られ青年学校教員の重要人物は最も圧迫せられ其の重要人物は直ちに戦時中余りに重要な学校は戦時中余りに並に戦前並に戦後の占領下に入つてしまつた青年学校は最も国家に貢献した学校として